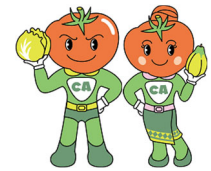




ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第20号 2022年1月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリー県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

2021年11月中旬～2022年1月中旬にプロジェクトで活動した仙道短期専門家から「有機野菜の生産・販売に関する概況」及び「乾季の有機野菜生産計画にかかる研修」に関する報告です。

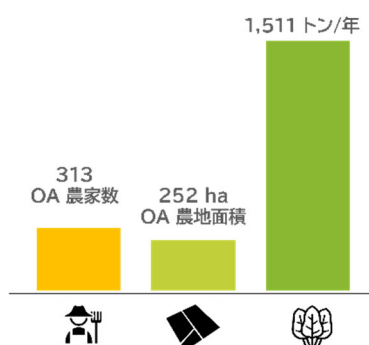
1. 有機野菜の生産・販売に関する概況

ラオスの首都ビエンチャンでは、新型コロナウイルスの市中内感染が急増したこと受け、2021年9月20日よりロックダウン措置が実施されております。そのため、一部の地域を除く JICA 関連の事業では在宅勤務を余儀なくされている状況にあり、政府カウンターパート機関も同様に在宅勤務やローテーション勤務に切り替わるなど、協働で活動を実施するには厳しい状況下にあります。

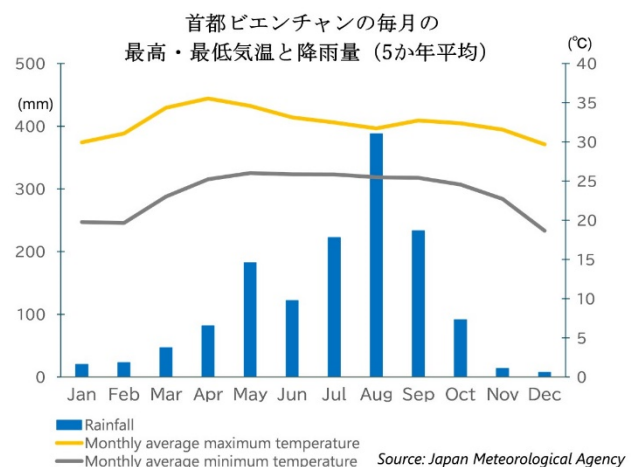
首都ビエンチャンでは有機野菜の生産・販売量が順調に増加しており、2020年には有機野菜の生産者数は313世帯、農地面積は約250ha、見込まれる生産量は年間約1,500トンとなっています。首都ビエンチャンの農家リーダー達で構成される OA 委員会が運営する OA マーケットが有機野菜の主な販路。特に市内最大規模を誇る ITECC (International Trade Exhibition and Convention Centre) OA マーケットでは年間500～600トンもの有機野菜が供給されています。

有機農産物の生産者情報（首都ビエンチャン、2020）

今回は雨季と比べて気温が下がり野菜の栽培がしやすい乾季のため、葉物野菜だけでなくニ



ンジンやビートといった根菜類、トマト、キュウリ、トウガラシなどの果菜類など多種多様な野菜が OA マーケットで販売されておりました。また、乾季は市場への供給量が大幅に増える一方、野菜によっては販売単価が雨季と比べて下がる品目があることが明らかになっており、農家の収益性改善に寄与するための生産計画が求められています。実際に乾季における葉物野菜の単価は雨季と比べて約30%下落したり、乾季の供給量は最大月で雨季の倍ほどとなるため、OA マーケット以外の販路開拓も課題解決の一助となるはずで



2. 乾季の有機野菜生産計画にかかる研修

2021年12月28日（火）に首都ビエンチャン農林局（PAFO）協力の下、首都ビエンチャンの OA グループや C/P 計28名を対象に研修を実施しました。研修テーマは、農家の収益性と市場ニーズに基づく有機野菜の生産計画で今回はヒアリングを行った小売業者のニーズにフォーカスしました。参加農家はグループワークの形式で乾季に栽培する野菜の収益性を算出したり、小売店のニーズを満たすような生産計画をシミュレーションした後、各グループの

プレゼンテーションを通して意見交換をすることで相互に学ぶ良い機会となりました。



(左写真)
参加者での
記念撮影

(右写真) グルー
プワークの様子



年 12 月 25 日（土）に物品贈与式が ITECC OA マーケットで開催されました。

0A 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信していません。今号は首都ビエンチャン・パークグム郡タサン村のタッサニー・ピラヴォン氏を取り上げます。



(写真) 自身の
圃場でのタサン
村タッサニー・
ピラヴォン氏

タッサニー氏は有機農業の村として有名なタサン村の村長でもあります。タサン村に有機農業グループが出来た 2010 年の最初のメンバーであり、10 年以上の有機農産物栽培の経験があります。合計約 4ha の農地を保有し、そのうち約 1ha で野菜栽培を行っています。レタス、ケール、コリアンダー等が良く売れるらしく、「私の野菜は市場で売れ残ることはほとんどありません」と言います。売上額は平均すると月約 1,000 万 Kip (約 10 万 7 千円) で、少しずつためたお金で雨除け施設を増設し、現在 30 棟になっています。

害虫防除としてタッサニー氏は以下の 3 つを実践しています。①レモングラス、イボツヅラフジ等から抽出した自然由来の殺虫・忌避剤の使用、②特定の害虫が増えないような輪作の実践、③害虫が増える時期を考慮した作物及び栽培時期の選択。土づくりとしては、牛糞、鶏糞、モミガラ等に EM を加えた堆肥づくりを実践しています。

新型コロナウイルスの影響で、OA マーケットの顧客が若干減ったことにより売り上げが二割程度は減少しました。それでも、大きな損害はないと言います。今後は果樹を増やしていきたいとのこと。

3. 首都ビエンチャン OA 委員会への物品贈与式

新型コロナウイルスが蔓延する中でも首都ビエンチャンの OA マーケットは継続して開催しています。2022 年 1 月現在 ITECC で週 3 日（月・水・土）を中心に、ビエンチャンセンターで週 3 日（水、金、日）、ドンナソークで週 2 日（月・木）それぞれ OA マーケットを開設しています。



(写真)
物品贈与式
の様子

プロジェクトは首都ビエンチャン OA 委員会の要望に基づき、OA マーケットで使用するテント 30 シート、及び椅子 200 個の物品供与を行いました。これらは老朽化が進み、一部 OA 委員会で購入しましたが、今回不足分をプロジェクトが支援する形になりました。首都ビエンチャン農林局主催により 2021

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email: cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



<https://www.facebook.com/jicaCADP/>

Homepage

<https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

